

船舶事故調査報告書

平成26年3月20日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	衝突
発生日時	平成24年8月29日 13時19分ごろ
発生場所	愛知県西尾市味沢漁港 西尾市所在の栄生灯台から真方位174° 1,070m付近 (概位 北緯34° 48.9′ 東経136° 59.9′)
事故調査の経過	平成24年8月30日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A 漁船 第二廣宝丸、0.6トン AC3-47435（漁船登録番号）、個人所有 6.40m (Lr) × 1.51m × 0.67m、FRP ガソリン機関（船外機）、60kW（動力漁船登録票による）、 平成6年8月 B 漁船 第三海喜丸、0.6トン AC3-47589（漁船登録番号）、個人所有 6.35m (Lr) × 1.51m × 0.58m、FRP ガソリン機関（船外機）、漁船法馬力数30、平成10年10月
乗組員等に関する情報	A 船長A 男性 72歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年8月8日 免許証交付日 平成22年4月23日 (平成27年5月7日まで有効) B 船長B 男性 42歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成11年12月7日 免許証交付日 平成21年4月22日 (平成26年12月6日まで有効)
死傷者等	A なし B 重傷 1人（船長B）、軽傷 1人（甲板員B）
損傷	A 船首外板に亀裂を伴う擦過傷、左舷舷側内側に亀裂を伴う損傷、 船底外板に塗装剝離を伴う擦過傷

	B 船首外板に亀裂を伴う擦過傷、船首防舷材に一部剥離、右舷側の日除けシート用鉄枠に曲損
事故の経過	<p>A 船は、船長Aが1人で乗り組み、味沢漁港に帰港し、漁獲したあさりを選別して買取り業者に渡したのち、再び出航して味沢漁港南方沖で稚貝を放流し、味沢漁港に向けて帰途についた。</p> <p>船長Aは、船尾右舷側に腰掛け、船外機ハンドルを左手で握って操船し、味沢漁港に入り、約9.5ノット(kn)の速力で東進中、平成24年8月29日13時19分ごろA船の船首とB船の船首とが衝突した。</p> <p>B船は、船長B及び甲板員Bが乗り組み、味沢漁港内東側に帰港して漁獲したあさりを選別したのち、味沢漁港内の浮き棧橋の荷揚げ場に向かった。</p> <p>船長Bは、船尾右舷側に正座し、船外機ハンドルを左手で握って操船し、浮き棧橋に向かっていたところ、浮き棧橋に着棧して荷揚げをしている2隻の船を認めたので、死んだあさを漁港外に捨てに行くこととし、約4～5knの速力で味沢漁港を西進中、A船と衝突した。</p> <p>船長B及び甲板員Bは、救急車で病院に搬送され、船長Bは、第1腰椎破裂骨折などと、甲板員Bは、左第8肋骨骨折と診断された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南南東、風力 2、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期</p>
その他の事項	<p>船長Aは、09時ごろ味沢漁港を出航し、09時30分ごろから2時間味沢漁港南方沖であさり漁を行い、12時30分ごろ入港した。</p> <p>船長Aは、浮き棧橋に着棧している漁船のあさりの漁獲量が気になり、左方を見ていた。</p> <p>船長Bは、09時ごろ味沢漁港を出航し、09時30分ごろから2時間味沢漁港南方沖であさり漁を行い、11時40分ごろ入港した。</p> <p>船長Bは、浮き棧橋の荷揚げ場の空き状況が気になり、右方を見ていた。</p> <p>甲板員Bは、右舷船首側で右方を向いて座っていた。</p>
分析	
乗組員等の関与	A あり、B あり
船体・機関等の関与	A なし、B なし
気象・海象の関与	A なし、B なし
判明した事項の解析	<p>A船は、味沢漁港を東進中、船長Aが、浮き棧橋に着棧している漁船のあさりの漁獲量が気になり、見張りを適切に行っていなかったことから、前方から接近するB船に気付かず、B船と衝突したものと考えられる。</p> <p>B船は、味沢漁港を西進中、船長Bが、浮き棧橋の荷揚げ場の空き状況が気になり、見張りを適切に行っていなかったことから、前方から接近するA船に気付かず、A船と衝突したものと考えられる。</p>

原因	本事故は、味沢漁港において、A船が東進中、B船が西進中、船長Aが、浮き棧橋に着棧している漁船のあさりの漁獲量が気になり、見張りを適切に行わず、また、船長Bが、浮き棧橋の荷揚げ場の空き状況が気になり、見張りを適切に行わなかったため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・航行中は、常時、見張りを適切に行うこと。